

東京薬科大学 新入教員のためのミニ教育ワークショップ

報告書

平成 25 年 4 月

F D 実施委員会

平成 25 年度 東京薬科大学 新入教員のためのミニ教育ワークショップ
(実施日：平成 25 年 4 月 6 日)

ディレクター：笹津学長
主催：全学FD実施委員会
事務局：学務課

出席者：笹津学長，山岸委員長，新槇薬学部長
タスクフォース：横松，渡邊，三巻，大野
学務課：増井，伊藤，酒井

受講者

Aグループ	Bグループ
田口 晃弘	長島 駿
藤川 雄太	輪島 文明
影山 美穂	山田 哲也
永尾 暢子	若菜 裕一
梅村 知也	吉田 君成
緒方 正裕	井上 勝央
伊集院 良祐	

プログラム

9：15 受付開始（教育5号棟，5204教室）
 9：30 開会式・オリエンテーション，アンケート記入
 9：40 SGD1 自己紹介，KJ法
 11：30 発表，合同討議
 11：45 SGD2の作業説明
 12：00 SGD2：目標設定（1）ニーズ，GIOならびにSBOs
 12：45 中間発表（ホワイトボード）
 13：00 昼食

 13：45 SGD3：目標設定（2）
 14：30 発表（模造紙）
 14：45 休憩

 15：00 SGD4の作業説明
 15：15 SGD4：方略立案
 16：45 発表（ホワイトボード），合同討議
 17：00 SGD5の作業説明
~~17：15 SGD5：評価立案~~
~~19：00 発表（ホワイトボード），合同討議，アンケート記入~~
~~19：30 会食（DR棟3階 会議室）~~

集合場所，全体会議：5204教室
 SGD， 5205, 5206 教室

悪天候のために、「評価」のセッションは説明のみで作成演習は中止した。

アンケート結果

第一日の評価									
1 (最低)	2	3	4	5					
今日のワークショップの流れにスムーズに入り込みましたか									
0	1	5	3	4					
今日、あなたは討議にどの程度参加しましたか									
0	1	5	4	3					
今日の内容は、あなたのニーズにマッチしましたか									
0	0	4	5	4					
今日の世話人の仕事は良かったですか									
0	0	0	1	12					
今日、良く理解できたことは何でしたか									
様々な問題点に対して、どのように解決していくかをSGDを通して理解できた 形成的評価と総括的評価があることがわかった 評価の客観的方法 GIOとSBOsについて 授業の組み立てや評価方法 授業計画は綿密に立てる必要があることを再認識した 評価方法についても客観的にする方針が見えた 教員の姿勢・考えかた 教育を行うに当たっての理論 GIO, SBOsなど授業を行う上での目標設定の方法 カリキュラムの作成方法 KJ法は問題を整理するための方法 学生の理解を高めるための効果的なカリキュラムの作成について									
今日、あまり理解できなかったことは何でしたか									
GIOとSBOsで動詞の使い分けが難しい 均一に教育評価を与える方法、それが可能か LSIについて GIO, SBOsの仕組みの理解が難しい カリキュラムでどの段階が重要か(コースとユニット) 評価法は座学で理解するのは難しい 実際に、具体的に授業や実習を行う際に今日学んだことをどこまで活用できるかイメージがわからない 方略を作成するうえでの制限(何名の教員でおこなうかなど) 評価の仕方のじっさいのところ(今日は時間が無くてSGDを行えなかった) 理解できていないことを自覚するに至っていない									
その他のご意見									
教育の方法のみならず、哲学を共有できる場があるとよい 短い時間でしたが、体系的に教育を学べてよかった 実際のカリキュラムを見ながらもう一度復習したい 学生との接し方に取り入れていきたい 密度が濃かった 新人教員なのでカリキュラム作成などが学べてよかった 何回か繰り返して実施してみたいと思った 教育者としての自覚が高まった									

	プレ			ポスト		
	賛成	どちらとも	反対	賛成	どちらとも	反対
1. カリキュラムとは、学科別時間配分表のことである。						
	4	4	5	0	4	9
2. 教育目標は、教授者が何をなすべきかを明確に規定したものである。						
	5	2	6	4	1	8
3. 学則で教育理念が示されていれば、教育の不十分な部分を容易に発見できる。						
	1	4	8	2	3	8
4. 教育目標を設定しておかなくても、正しい評価は可能である。						
	0	4	9	1	0	12
5. 知識を獲得するには、講義を聴くのが最良の方法である。						
	0	5	8	0	4	9
6. 問題解決の教育には、指導者が問題解決の仕方を示さなくては学習者が問題解決能力を修得することはできない。						
	2	8	3	2	7	4
7. 実習に先立って、十分に知識を教えておくことは必須である。						
	10	3	0	11	2	0
8. 教授者が厳しければ厳しいほど、学習者はやる気を出す。						
	0	5	8	0	4	9
9. 試験をしなくても、教育評価は可能である。						
	3	10	0	10	3	0
10. 教育の改善を促進させるには、まず改善にとつてのプラス因子を増やす方が肝要である。						
	10	3	0	8	2	3

(ボールドが期待する回答)

- * プロダクト
- * FDワークショップの様子

総評

大学教員は、教職課程を学ばずに教壇に立つことが圧倒的に多い。本学に着任された教員に対し、教育の基本であるカリキュラムプランニングを学んでいただき、学生により良い学びを提供していただきたいとの考えから、本ミニワークショップを実施することとなった。本学では、夏に継続的にFDワークショップを実施しているので、本格的には、そこで学んでいただくこととして、今回は、1日コースとし、報告書も課さないこととした。発展的な学びは、夏季のFDワークショップ、あるいは、薬学部においては指導薬剤師養成ワークショップ等への参加で補っていただくこととする。

本ワークショップの参加者は最終的には13名となった。採用日直後の週末ということもあり、新入職員全員に参加していただくことはかなわなかった。この点は次年度に向けての改善項目の一つである。また、今回のWSでは、午後から悪天候となり、学生のみならず教員に対しても帰宅指示が出された。そのために、当初の計画では「評価」の作成演習を行う予定であったが、これを行うことができなかった。参加者からの感想でも、その点に触れられており、各先生方には、なるべく早くチャンスを見つけて学んでいただきたい。

ワークショップの最初のセッションでは、お絵かき法で自己紹介していただいた。年齢とともに絵を描くチャンスは少なくなっており、各先生方は新鮮な気持ちで取り組んでいただいた。アイスブレイクがどのようになされるかによって、グループダイナミクスは著しく影響をうけるので、重要なセッションである。2日コースであれば、コンセンサス形成を中心としたゲームを行うことができるが、ミニFDでは、時間的にもお絵かき法が適している。

KJ法による情報の収集と整理では、大学教育の問題点を集約していただいた。各先生方は様々な経歴をおもちであり、意見の共有化を図ることができた。60分の時間では、各カードの思いについて、十分に議論するには至らず、もっと時間をかけてじっくりと討議できると良い。今回は新入教員として一般論として議論していただいたが、次回には本学の問題点として、より具体的な抽出とさらには対応策・解決策の検討に結び付けていけると良い。

カリキュラムプランニングでは、「課題解決能力を醸成する」プログラムを立案していただいた。2グループがそれぞれ特徴のあるプログラムを立案された。課題解決能力は両学部で共通するカリキュラムポリシーの一つである。社会で求められるもっとも重要な能力の一つである。様々な方法を組み合わせることで少しでも学生の能力を充実させることに繋がるとよい。今回は、1年次後期生を対象としたプログラムを立案していただいたが、この課題は、4年間あるいは6年間を通して徐々に醸成されるものであり、体系的なプログラム（コース）を形成して実践すべき内容といえる。本学のカリキュラムの中で、これを実践していただけると良い。

参加者の感想・アンケートからは、充実した一日を過ごしていただけたことがうかがえる。本ミニWSを実施するに当たり、多くの方々の協力のもとに実施できたことに感謝したい。このような活動を継続することで、少しでも多くの学生の潜在的な能力を引き出すことに繋がることを期待したい。

FD 実施委員会主催
新入教員対象 FD ワークショップ

日にち：2013 年 4 月 6 日（土）

場所：東京薬科大学 教育 5 号館



【合同会場】





【グループ討議】

